共生社会を考える総合情報誌

FINE おおさか

vol.71 2009 SPRING

特集

ファイン財団20年のあゆみ

ようこそ! ファイン財団へ　ホームページへのアクセスは http://www.fine-osaka.jp/

『FINEおおさか』で振り返る ファイン財団20年のあゆみ

1989（平成元）年12月、大阪府は明るく活力ある長寿社会の実現をめざして、「公民の福祉の総合基地」として「財団法人大阪府地域福祉推進財団」を設立しました。

今年は、設立から20年の節目の年となります。また、財団設立一周年を機に創刊された情報誌『FINEおおさか』も70号を数えました。

そこで、今号では〈『FINEおおさか』で振り返る20年のあゆみ〉と題して、誌面で発信してきた情報を振り返りながら、ファイン財団の20年間の取り組みをご紹介します。

財団法人 大阪府地域福祉推進財団の設立

20世紀が残り12年となった1989（平成元）年、来るべき21世紀には、65歳以上の人口が2割を超える超高齢社会の到来が予測されていました。

特に、大阪では高齢化が急速に進み、21世紀を迎えるまでに超高齢社会に対する準備をきちんと行う必要があるとの考えのもと、さまざまな取り組みが進められてきました。

すべての人が健康で生きがいをもって明るく暮らせる社会をつくるためには、豊かな知識と経験を持った高齢者はもとより、全世代を対象とした積極的な事業を展開しなければならない。援護を要する高齢者や障がい者をはじめ誰もが住みなれた家庭や地域で、社会の一員として持てる能力を活かして社会に参加し、安心して生活できる在宅福祉サービスの推進が必要である――。

こうした課題に対して適切かつすみやかに対応するとともに、人々のニーズの増大や多様化に対応するため、サービスの選択肢の幅を拡大し、質の向上を図るための「公民の福祉の総合基地」として設立されたのが、財団法人大阪府地域福祉推進財団です。

公民一体の新しい組織として、生きがいづくり、在宅福祉の推進、シルバーサービスの健全育成を総合的に進め、府民の誰もが健康で生きがいをもって明るく暮らせる福祉社会づくりをめざす取り組みがスタートしました。

事業の三本柱

財団法人大阪府地域福祉推進財団は、「明るく活力ある福祉社会づくりの推進」「在宅福祉サービスの推進」「シルバーサービスの振興」を事業の三本の柱といたしました。

明るく活力ある福祉社会づくりの推進

高齢者の生きがいづくりと、障がい者の社会参加と交流、そして未来を担う子どもたちのための環境づくりを目指し、すべての府民が、地域で安心して活き活きと生活できる、そんな明るく活力ある福祉社会づくりを進めます。

在宅福祉サービスの推進

高齢者や障がい者が、地域で「安心して」生活を送るためには在宅福祉の充実が重要です。これからの在宅福祉を担う人材の育成や福祉用具の普及など、在宅福祉サービスの推進に努めます。

シルバーサービスの振興

介護から健康・生きがい・住まいにいたるまで、シルバーサービスが対象とする分野は幅広く、多種多様です。府民のみなさまのニーズに応える、より質の高いシルバーサービスの提供を目指して、さまざまな活動に取り組みます。

シンボルマークと愛称

財団のシンボルマークは、公募によって1990(平成2)年の7月に決まりました。

応募総数411点の中から厳正な審査の結果、左の作品が最優秀作品に選ばれました。

シンボルマーク

シンボルマークは、大阪府の頭文字「O」をモチーフに、人が起き上がり、活動することにより、人と人とのふれあいが生じ、心が通じ合うさまが、ハートに象徴されています。同時にますますの発展、進歩、活発さ、活動の広がりがイメージされています。

財団法人大阪府地域福祉推進財団には、「FINE(ファイン)財団」という愛称があります。

これは、Full Participation(完全参加)、Integration(統合化)、Normalization(みんなが社会の一員として共に暮らす社会づくりの考え)、Equality(平等)の4つの頭文字をつないだもの。

みんなが等しく暮らせるようなファイン(素敵・快適)な社会をつくり上げていこうという意味が込められています。

『FINEおおさか』創刊

ファイン財団が設立され、通年事業として老人大学講座、シルバーアドバイザー養成講座や高齢者総合相談情報センター、大阪府立老人総合センターの運営を開始。その後、大阪府立障がい者交流促進センター、大阪府谷町福祉センターの運営などを始めました。

さまざまなイベントや講習会などを積極的に開催。高齢者・障がい者・子どもたちなど幅広い世代の府民が集い、二泊三日で交流を深める祭典「洋上ふれあいフェスティバル(サンシャインクルージング)」も実施しました。

そして、財団設立一周年を記念して「FINEおおさか」プレ創刊号を1990(平成2)年の12月に発行。翌年の3月には、創刊号を発行。そこには、特集「学衆社会を拓く」と題して、"人生80年"という長寿社会を見据え、生涯学習がいかに大切なものかをテーマにした著名人による座談会の様子を掲載。また、「FINEマナビスト」と題して、さまざまな生涯学習活動を実践されているグループや個人を紹介しました。以降、「FINEおおさか」では、自分らしくいきいきと社会を生きる多くの"人"を紹介してきました。2002(平成14)年43号からの「おおさか元気人」のコーナーでは、数々の素晴らしい人にご登場いただきました。

共生社会を考える総合情報誌「FINEおおさか」は、年4回のペースで発行され、2009(平成21)年1月までで70号を数えました。

『FINEおおさか』創刊号の表紙と誌面

ここからは、「事業の三本柱」それぞれの事業について、『FINEおおさか』のバックナンバーから関連記事を紹介していきましょう。

明るく活力ある福祉社会づくりの推進

高齢者の生きがい・健康づくりの推進

自らが生きがいをもって、個々に有する能力・パワーを積極的に活かすことのできる社会づくりを支援しています。

主な取り組みとしては、

1 地域社会におけるリーダー養成

◎大阪府高齢者大学　アクティブシニア講座（前老人大学講座）の実施

◎シルバーアドバイザー養成講座の実施

2 シニアグループに対する支援

◎地域におけるシニアグループのネットワーク化と生きがいの場づくりの支援

3 シニア層の生きがい・健康づくり支援

◎全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手派遣

などがあります。

高齢者のいきいきライフをサポート ～アクティブシニア講座（前・老人大学講座）～

最初の項目であるアクティブシニア講座については、2007（平成19）年65号の特集で取り上げていますので、記憶に新しいことでしょう。講座の意義や概要、開講科目を紹介するとともに、いくつかの専門科目の様子を取材し、受講者の声などを紹介しました。

このアクティブシニア講座は、前年まで「老人大学講座」として展開していたもので、1979（昭和54）年から続いてきた講座です。これまでに2万人以上の方々が受講・修了されています。

開講されてきた専門科目には、福祉科・園芸科・陶芸科・手芸科・保健体育科・生活科学科・美術科・歴史考古学科・英語科・上方演芸科などがあり、北部講座（府立老人総合センター）と南部講座（府立障がい者交流促進センター）、東部講座（府立中央図書館）で実施されてきました。

老人大学講座に関連しては、2001（平成13）年の41号で「大阪府立老人総合センター・夏期公開講座」、翌年の42号で「センター祭・大学祭（講座受講者の発表会）」を紹介しました。

「夏期公開講座」は、高齢者の生きがいと健康づくりを促進することを目的に、より多くの高齢者に学習してもらえるようにと、老人大学の講師陣を中心に4日間の短期集中講座を実施したものです。

41号（上）と42号（中）、44号（左）の老人大学講座を紹介する誌面

左／65号のアクティブシニア特集の誌面
上／朗読語り部科　下右／保健体育科
下左／自然アウトドア科

また、「センター祭・大学祭」は、老人大学講座やシルバーアドバイザー養成講座の受講者が日頃の成果を発表する場で、2日間にわたって開催しました。講座だけでなく、クラブやサークル活動での作品展示などもあり、観覧に訪れた地域の人たちとの交流が図られている様子を紹介しました。

65号で紹介した2007年度の開講科目である健康福祉科・歴史考古学科・英会話コミュニケーション科・中国語コミュニケーション科・保健体育科・自然アウトドア科・笑いで健康づくり科・手話コミュニケーション科・ITコミュニケーション科・朗読語り部科とこれまでの科目を比較すると、その内容の変化に驚きます。まさに21世紀にふさわしい〝アクティブシニア〟へと、高齢者のイメージ、高齢者の生きがいづくりの変化を読み取ることができます。

「おおさか元気人」のページでも、老人大学講座修了後、生きがいとしてさまざまな活動を継続されている方にご登場いただきました。老人大学講座・アクティブシニア講座が確実に実を結んでいる一例です。平成21年度からは、NPO法人大阪府高齢者大学校が講座を受け継ぎ、開講していきます。

暮らしの安心を支える相談窓口 ～シルバー110番～

シルバー110番は、高齢者や家族の方が抱えるさまざまな問題の相談を受け付ける相談窓口。生活相談、法律相談、介護相談など、相談種類を細分化して相談に応じました（平成20年7月に終了しました）。

また、65歳以上の人を対象にした無料職業相談や、福祉用具、介護用品、健康増進用具の展示や相談。相談に必要な情報の収集・提供、高齢者福祉に携わる人の質の向上を図るための研修なども実施。

『FINEおおさか』の誌面でも、相談内容の代表的なものを取り上げ、連載記事「シルバー110番」として毎号紹介するとともに、シルバー110番に気軽にご相談くださいと、利用を呼びかけました。

シルバー110番の誌面

上／10号の第6回大会の特集
下／3号に掲載されたテニス大会の記事

高齢者の方々を主役とした祭典 ～「ねんりんピック」に選手派遣～

高齢者を中心とする、スポーツ、文化、健康と福祉の総合的な祭典である全国健康福祉祭「ねんりんピック」。ファイン財団設立の前年、1988(昭和63)年に厚生省（現・厚生労働省）創立50周年を記念して開始されて以来、毎年開催されています。

財団では、全国で開催されるねんりんピック大会への大阪府選手団の派遣事業を行っています。

『FINEおおさか』の誌面でも、「ねんりんピック」の開催情報や、大阪府選手団の活躍の様子を紹介してきました。

1991(平成3)年の3号では「テニスで大阪が優勝！ ねんりんピック いわて大会」と喜びの声を紹介。1994(平成6)年の10号では、前年に京都で開催された第6回大会の模様を巻頭カラーで伝えました。同じ近畿での開催ということもあり、大阪府からは全16種目100余名が参加し、さまざまな競技を通じて交流の輪を広げました。

史上最大規模の約70万人が参加「ねんりんピック2000大阪」

「ねんりんピック」に関する取り組みとしては、なんといっても2000(平成12)年の「第13回全国健康福祉祭大阪大会 ねんりんピック2000大阪」でしょう。

「なにわから 未来にかける 長寿の橋」をテーマに、11月3日から6日までの4日間にわたって開催された大会は、20世紀最後を飾るにふさわしい、かつてない大規模な大会となりました。

全国からの約15，000人の選手・役員をはじめ、約70万人の参加者を数えたのは大会史上初。この参加者記録は、現在もまだ塗り替えられていません。3，000人を超えるボランティアをはじめ、大阪府民一丸となって大会を盛り上げました。

この大会の競技種目は23種目。府内13市1町で競技が行われました。

上／「ねんりんピック2000大阪」大阪府選手団の入場シーン
左／同 音楽祭

38号では、「ねんりんピック2000大阪」を特集として紹介

『FINEおおさか』の誌面では、2001(平成13)年の38号で特集として「ねんりんピック2000大阪」大会を紹介。

表紙にも大阪府選手団の入場のシーンをとりあげ、巻頭のカラー3ページ、モノクロ5ページを使って、開会式の様子から主な種目とその出場選手をクローズアップ。また、同時開催の「第6回シルバーサービス総合フェア」「健康福祉機器展」、また「ねんりんピック」の世代間交流イベントである「音楽祭」など、関連イ

誌面プレイバック！

スポーツや文化活動へのチャレンジ企画

財団では、「ねんりんピック」への選手団派遣をはじめ、高齢者のスポーツや文化活動、健康づくりへの取り組みを行っています。『FINEおおさか』の誌面でも、連載読み物としてスポーツや文化活動へのチャレンジを促すページを設けました。

「やってみま専科」

プレ創刊号から1996（平成8）年16号まで続いた連載記事。

ペタンク、サイクリング、水泳、太極拳、気功術、社交ダンス、英会話、ボウリング、バンパープール、シャッフルボード、マラソン、ディンギー、オートキャンプ、手づくりビール、ピアノ、ハーブ栽培、熱帯魚飼育のノウハウを紹介しました。

「体にやさしいファイン・クッキング」

1998（平成10）年27号からは、旬の食材を使った健康料理のコーナーがスタート。2000（平成12）年34号まで連載しました。

「人生楽しみま専科」

2005（平成17）年55号から2007（平成19）年59号までの連載。

ウォーキング、楽器演奏、大学院に行こう、サイクリング、フラダンスを取り上げました。

「いきいきチャレンジ」

2007（平成19）年60号からは、誌面をオールカラーにし、「人生楽しみま専科」から「いきいきチャレンジ」へと刷新しました。

水中運動アクアビクス、ボウリング、ビーズアート、健康マージャン、音訳、大人の塗り絵、自然素材でアート、家庭菜園、絵手紙、観光ボランティアガイド、ウクレレを取り上げました。

また、この60号からは、表紙に折り紙作品を使用し、その折り方を紹介したり、「楽しみながら頭の体操」というクイズのコーナーを設けるなど、読者のみなさんにいろいろチャレンジしてもらう企画を豊富に盛り込んだ誌面としました。

30号から37号はねんりんピックの競技を表紙に。

38号特集「ねんりんピック2000大阪」の誌面

ベントを紹介しました。

この他、「ねんりんピック」の関連誌面としては、1999（平成11）年30号で、「ねんりんピック'98愛知・名古屋大会」に大阪府の最高齢選手が出場したグラウンド・ゴルフを紹介。続く31号から37号までは「ねんりんピック競技紹介」と題して、なぎなた、将棋、サッカー、太極拳、ペタンク、ソフトバレーボール、ボウリングの各競技を紹介し、「ねんりんピック2000大阪」大会を盛り上げました。

シニア世代の自分らしさを求めて
～ファインエイジフォーラム開催～

シニア世代が健やかで生きがいをもって自立するとともに、各人が持てるパワーを社会で積極的に活かし、シニア世代一人ひとりが自分らしい暮らしを実現していくための「ひと」「もの」「情報」が出会う場を提供することを目的に開催したのが「ファインエイジフォーラム」です。

『FINEおおさか』誌面で特集として大きく取り上げたのは、2003(平成15)年47号と2006(平成18)年59号の2回。

47号では、一人ひとり年齢にとらわれない、生きがいのある「自分流の暮らし」をテーマに開催した2003年のフォーラムの様子を紹介しました。

会場となったのは、大正ロマンの風格がただよう大阪市中央公会堂です。満員の盛況を見せた永遠の若大将・加山雄三さんのトーク&ライブのステージの他、マジックや歌、落語などシニアによるパフォーマンス、協賛企業や団体によるキャンペーンブースなど、盛りだくさんの催しが用意され、集会室を使ったセミナーやトークショーでは、さまざまな場面で生きがいをもって活躍するファインな人たちが登場し、3,000人にのぼる参加者たちがいきいきとした時間を過ごしました。

59号で紹介した2006年のフォーラムは、介護予防をテーマに梅田スカイビルで開催したもの。各種展示、体験コーナー、トークショー、セミナー、パフォーマンスなどが繰り広げられ、2日間で約6,500人の参加者でにぎわいました。

誌面では、2日目に行われた聖路加国際病院理事長の日野原重明さんによる講演の内容を掲載。講演の後に開催された「日野原先生と元気な高齢者4人のトークショー」の模様や、フォーラムで行われたさまざまな発表やセミナーの紹介を行いました。

介護保険スタートから6年、介護サービス情報の公表制度導入を4月に控えた時期でもあり、フォーラム会場で実施された新制度についてのシンポジウムを誌面で詳しく紹介するなど、タイムリーな情報の提供を行ってきました。

上／47号の表紙とフォーラムの特集誌面
下／59号の表紙と介護予防をテーマにしたフォーラムの誌面

地域の派遣依頼に応えて活躍
～「大阪シニアサポーターバンク」～

2005(平成17)年4月、ファイン財団では「大阪シニアサポーターバンク」というシニアボランティア派遣プログラムを本格スタートさせました。

これは、高齢者が長年にわたり培った豊富な知識・経験・技能を、地域からの要請により積極的に活用することで、地域の活性化を図ることをめざして設置されたもの。高齢者が社会に参加することで、生きがいのある健康的な日々を送ることを応援しています

大阪シニアサポーターバンクには、「子育て支援」「スポーツ・健康」「演芸・技能」「教養」

58号の表紙と大阪シニアサポーターバンクの活風景動

の4つの分野で活動している、おおむね60歳以上の高齢者の方々のボランティア団体・グループに登録していただいています。登録団体を、高齢者施設・保育所、自治会などのさまざまなイベントに派遣し、活躍していただいています。2009(平成21)年2月現在、45の団体が登録し、大阪府内各地でさまざまな活動を行っています。

『FINEおおさか』の誌面では、2006(平成18)年58号の特集で、大阪シニアサポーターバンクを取り上げました。シニアの社会参加について、大阪大学大学院人間科学研究科教授の藤田綾子さんのインタビューを掲載したあと、牛乳パックやダンボールなど身近なリサイクル物品等を使った子ども向けのおもちゃづくり教室を地域のイベントや、学童保育などに出前する「大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会」、東大阪在住のシルバーアドバイザーの方と東大阪の市民グループで結成された団体で手づくりおもちゃ教室を出前する「くすのきヤジロベーの会」、腹話術、ハンドベル、あやつり人形、手品、南京玉すだれなどのステージを出前する「てんこもり劇場」、障がい者の授産製品の販売促進のため、販売場所・宣伝方法・品質向上の技術指導を行う「NPO法人アクティブ・エイジング」、唱歌、童謡から、歌謡曲、ポピュラー、アニメソングまで幅広いレパートリーで楽器演奏を出前する「ウィークデイ アンサンブル」の5つの団体の活動を紹介しました。

誌面プレイバック!

シリーズ読み物も充実!

第2特集といってもいいようなボリューム感のあるシリーズ読み物も数々展開してきました。

シリーズ「高齢社会と介護を考える」

1996(平成8)年19号から1998(平成10)年26号まで掲載。高齢社会と介護をテーマに、各号さまざまな視点から府内各市町村の取り組みや、識者へのインタビューなどを掲載。8回にわたって介護問題について取り上げました。

シリーズ「少子社会」

1997(平成9)年23号から1998(平成10)年26号まで掲載。少子化の背景と原因、現状について専門家の話を紹介するとともに、現実的な問題について掘り下げました。

シリーズ「介護保険テイクオフ」

1998(平成10)年27号から2000(平成12)年34号まで掲載。2000(平成12)年4月から導入される介護保険制度について、さまざまな面からの解説と検証を実施しました。

シリーズ「高齢期を過ごす住まいと施設」

2001(平成13)年39号から2002(平成14)年43号まで掲載。特別養護老人ホームから福祉マンションまで、高齢期の住まいと入所施設について、種類別にそれぞれの具体例を紹介しました。

シリーズ「心とからだを癒す」

2003(平成15)年47号から2005(平成17)年54号まで掲載。各号、笑い、眠り、香り、音楽、動物、植物、座禅、入浴というリフレッシュやリラクゼーションのためのさまざまな方法を紹介。その効果や有効な利用の仕方などについて伝えました。

左/シリーズ「高齢期を過ごす住まいと施設」の誌面
右/シリーズ「心とからだを癒す」の誌面

障がい者の社会参加・交流促進

スポーツや芸術・文化等を通じて、障がいのある人もない人も共に生活し、活動できる共生社会の実現に努めています。

主な取り組みとしては、

1 交流・ふれあいイベントの開催

◎ファインエリアフェスティバル

◎障がい者スポーツフェスタ

2 障がい者スポーツの振興

◎生涯スポーツの振興

◎競技スポーツの振興

◎スポーツ振興のための基盤整備

◎スポーツ情報の収集・発信

3 障がい者を対象とする文化教室等の開催

4 障がい者芸術・文化活動支援事業

◎障がい者芸術・文化オープンカレッジの開催

◎障がい者芸術・文化フェスタの開催

5 障がい関係福祉情報等提供事業

◎障がい者の芸術・文化情報の発信

◎関連情報収集や交流の場の提供

6 障がい者を支援する各種人材の育成

◎災害支援ボランティアリーダー養成研修

などがあります。

誰もが安心して利用できる施設 ～「ファインプラザ大阪」を運営～

性別・年代・障がいのあるなしを超えて、スポーツ振興・文化・交流活動を支援するための施設として設立された大阪府立障がい者交流促進センター「ファインプラザ大阪」の管理運営を行っています。

体育館、プール、トレーニング室、大研修室、情報資料室、会議室などを備えた3階建ての建物と、グラウンド、アーチェリー場、駐車場からなる施設で、誰もが安心して利用できる、スポーツ・文化複合施設となっています。

上／「ファインプラザ大阪」外観
左上／「ファインプラザ大阪」体育館
下右／同 プール　下左／イベント

継続的にスポーツや文化活動に参加できる「教室」や、さまざまな競技や文化活動を体験できる「講習会」をはじめ、日頃の練習の成果を発表し、自己の記録に挑戦する「大会・記録会」、障がいのある人もない人も共に交流を図ることのできる「イベント」などを開催しています。また、レクリエーションや体力増進、健康維持、スキルアップなど、様々な目的を持って参加することのできる、年間を通じての各種プログラムを実施しています。

２００６(平成18)年60号のいきいきチャレンジのコーナーでは、ファインプラザ大阪で実施されているプールプログラムの中から「アクアビクス」という水中での全身運動を紹介しました。

また、２００８(平成20)年69号では、おおさか元気人のコーナーでファインプラザ大阪のスポーツ指導員であり、パラリンピックに出場した藤田真理子さんの活躍の様子を紹介するなど、ファインプラザ大阪の活動の一端を伝えました。

障がい者の交流活動や文化活動を支援 ～「ビッグ・アイ」を運営～

障がい者の社会参加を促進することを目指して、障がい者自らが行う国際交流活動や芸術・文化活動の場、また、障がい者のみならず、広く国民が参加する交流の場として国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」を運営しています。

ビッグ・アイが誕生したのは２００１(平成

上／右に国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」、左に隣接するのは大型児童館「ビッグバン」

左／40号のビッグ・アイオープン告知記事
右／43号の誌面

13)年9月。その年の『FINEおおさか』40号では、ビッグ・アイのオープンを伝えています。

「国連・障がい者の十年」を記念して建てられたビッグ・アイは、全館、最新のバリアフリー設備を備え、誰もが利用しやすい、21世紀のノーマライゼーションのモデル施設です。駐車場から通路、トイレ、エレベータなどの各施設まで、使いやすさと安全性を考えた設備が充実しています。

ビッグ・アイでは、障がいのある方もない方も一緒にアートを身近に感じ、アートを通じて社会参加や自己表現について考え、共に時間・空間を共有し、相互理解を深め、自己表現のきっかけづくりを提供する場として、バリアフリーアートアカデミーを企画。また、国際交流事業、全国の障がい者芸術・文化活動支援事業として、障がい者芸術・文化フェスタ、障がい者芸術・文化オープンカレッジなどの各種文化・芸術イベントを開催しています。

2002(平成14)年43号の誌面では、ビッグ・アイで開催された「障がい者芸術・文化オープンカレッジ」の模様をレポート。障がいのある方たちに自己表現の楽しさを実感していただこうと、舞台芸術、演劇、ダンス、音楽の4つのコースでの講義や体験イベントを実施。その様子を伝えています。

また、それぞれの施設で開催される講座やイベントなどについては、財団の催しを紹介する「FINEあらかると」のコーナーで紹介してきました。

障がい者のふれあい交流イベント ～「ファインふれあいツアー」を実施～

ファイン財団のふれあい交流事業として、障がい者の社会参加と交流を目的に「ファインふれあいツアー」を実施。1998(平成10)年2月からは、大阪ではほとんど積もることのない雪を通してレクリエーションやスキー講習会などを楽しむ雪遊びツアーを開催。一泊二日で兵庫県村岡町へ出かけました。この時の様子は『FINEおおさか』27号の誌面に巻頭カラーで紹介しました。

暖冬で雪がなく実施できない年もありましたが、蔵王や白馬、ハチ北スキー場などへのツアーは、障がい者やその家族の方々などが毎年楽しみにされているイベントです。

1999(平成11)年31号では、山形県蔵王での「ファインふれあい蔵王ツアー」の様子を、2000(平成12)年35号では、ハチ北スキー場での「ファインふれあいスノーツアー2000」の様子を紹介しました。参加者がゲレンデで楽しむ姿や、スキー以外のさまざまなイベントで地元の方々と交流する様子を伝えました。

上／「ファインふれあいスノーツアー2000」
上左／チェアスキーを楽しむ参加者

左／31号の誌面　右／27号の誌面

児童環境づくりの推進

次世代を担う子どもたちが、夢と希望にあふれ、安心と喜びをもって暮らせるよう、社会全体で子育てを応援する環境の整備に努めています。

子どもの豊かな遊びと文化創造の拠点 ～「大型児童館ビッグバン」を運営～

子どもたちが想像力を駆使してさまざまな遊びを体験できる空間として、大阪府が1999（平成11）年6月にオープンさせたのが、「大型児童館ビッグバン」。

「遊び」をテーマに「子どもの豊かな遊びと文化創造の中核拠点」として整備されたビッグバンの管理・運営を行っています。『宇宙戦艦ヤマト』『銀河鉄道999』などでおなじみの漫画家・松本零士さんを館長に迎えた夢があふれる施設です。

地上5階、地下1階建て、延床面積約1万㎡の館内は、松本零士さんが創作した〝宇宙からの訪問者「ベアル」と「メロウ」の壮大な旅物語〟に沿った、ストーリー性のある非日常空間を演出。車いすでの移動が容易なスロープ、段差のない構造や、立体触地図、点字等によるサインなど、すべての子どもたちにやさしい福祉設備を整えたバリアフリー構造です。本館1階のエントランスフロアーから、2階、3階のフロアーにわたる段状の大空間、その上は着陸した宇宙船をイメージした4階部分で構成され、隣には半円の球形劇場（こども劇場）、そして地上高53メートルの遊具の塔がそびえ立っています。

23号の誌面

1997（平成9）年23号の『FINEおおさか』誌面では、、ビッグバンのオープンに先駆けて開催された第1回「子どもフォーラム」の様子を紹介し、ビッグバンの構想や、ビッグバンでの遊びについて、子ども委員の意見交換の内容などを伝え、ビッグバンへの期待感を膨らませました。

1999（平成11）年32号では、「子どもの遊びを育む」と題した特集を掲載し、オープンしたばかりのビッグバンの魅力を伝えました。

誌面プレイバック！

“大阪の元気人”がいっぱい！

『FINEおおさか』は、各方面で活躍する元気な人たちを紹介し、そのパワーを読者のみなさんにも感じていただく冊子でもありました。

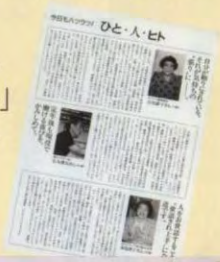
1990（平成2）年のプレ創刊号には「今日もハツラツ！ ひと・人・ヒト」のコーナーで老人大学講座一期生で、地域福祉の貢献者に贈られる「キワニス賞」を受賞された石黒静子さん（当時71歳）、ボランティア労力銀行を主宰した大阪の福祉の先人である水島照子さん（当時70歳）、高齢者だけの会社「マイスター60」の社員の石丸健治さん（当時61歳）の3人のシニアを紹介。

また、プレ創刊号から1996（平成8年）18号までは「FINEインタビュー」と題して著名人へのインタビュー記事も連載しました。

ご登場いただいたのは、西川ヘレン、角淳一、岸昌、高島忠夫、寿美花代、豊島美雪、正司歌江、渋谷天外、時実新子、加藤俊彦、上沼恵美子、東多江子、桂南光、馬場章夫、藤山直美、原田伸郎、遥洋子、古屋和雄、桂あやめ、大村崑のみなさん方。

1995（平成7）年15号から翌年の18号までと、2002（平成14）年43号から現在までは「おおさか元気人」で、趣味やスポーツ、文化活動などさまざまな分野で活躍する大阪府民のみなさんをご紹介してきました。

この他、「リレーインタビュー」や「サークル紹介」のコーナーなどにも、たくさんの方々にご登場いただきました。



上／プレ創刊号の誌面　中／2号の著名人インタビュー
下／66号「おおさか元気人」

年間イベントも盛りだくさん！

財団では、さまざまな講座や教室、イベントを実施してきました。『FINEおおさか』では、それらのイベントの開催について「FINEあらかると」のページでお知らせするとともに、大きなイベントなどについては、誌面でその概要を紹介しています。

世代を超えた船上交流「サンシャインクルージング」

世代間交流イベントとして人気を博したイベントが、「サンシャインクルージング」です。

『FINEおおさか』1991(平成3)年3号と翌年の6号で一泊二日で四国へのクルーズを行った「サンシャインクルージング'91」「サンシャインクルージング'92」、'93年の9号で大阪湾周遊一日クルーズを行った「サンシャインクルージング'93」の様子を紹介。

出港の際には、大阪府立大学吹奏楽部や大阪市消防音楽隊などの素晴らしい演奏に見送られ、船上では老人大学受講生のボランティアによるさまざまなお楽しみコーナー、人気お笑い芸人による漫才やマジックショーなどのイベントが繰り広げられました。また、車いすの介助法や視覚障がい者へのガイドヘルプの講座なども実施。

四国へのクルーズでは、寄港地の香川県でいくつかのコースに分かれての観光やイベントを実施。参加者、スタッフ、ボランティアなどが一体となった楽しい時間を過ごしました。

世代を超えたスポーツ交流「いきいき健康フェスティバル」

さまざまな世代の参加者が多種多様なスポーツにチャレンジする、健康をテーマにしたイベントが「いきいき健康フェスティバル」。万博記念公園や服部緑地公園などを会場に毎年秋に開催され、グラウンドゴルフ、ペタンク、ゲートボールなどの交流競技大会や、注目のニュースポーツを体験できるコーナー、体力測定、フリーマーケットや手づくり玩具コーナーなど、さまざまな催しが繰り広げられました。また、ゲストを招いてのトークショーやコンサートなど、毎年趣向を凝らした企画で盛り上がりました。

『FINEおおさか』誌面でも、1992(平成4)年4号から、イベントの模様を紹介。世代を超えたスポーツ交流の様子を伝えました。

地域における子育て家庭への支援「子育ち子育てフォーラム」

子育てを家庭だけの問題とせず、社会全体のものとしてとらえ、安心して子育てできる社会づくりをめざして、「子育ち子育てフォーラム2007」をビッグ・アイ(国際障害者交流センター)と隣接する大型児童館ビッグバンの2つの施設を舞台に開催しました。

『FINEおおさか』2008(平成20)年66号では、2日間にわたって繰り広げられたこのフォーラムの模様を特集として紹介。1日目の基調講演と、児童環境づくり推進機構のある7つの道府県の先進的取組を発表する「子育て支援の輪 7道府県のつどい」の概要を掲載しました。また、2日目の基調講演とそれに続く各分科会、大ホールを使った華やかな舞台発表や、ゲストを招いてのトーク&ライブ、あそびのコーナーなどの盛りだくさんなプログラムの様子を取り上げました。

在宅福祉サービスの推進

高齢者や障がい者が、地域で「安心して」生活を送るためには在宅福祉の充実が重要です。これからの在宅福祉を担う人材の育成や福祉用具の普及など、在宅福祉サービスの推進に努めています。

在宅福祉サービス推進事業

介護知識・福祉用具の普及啓発を図るとともに、在宅福祉を支える福祉人材を養成しています。

主な取り組みとしては、

1 介護知識・技術の普及促進事業

◎介護講座開催事業

◎高齢者や障がい者の生活支援に関する啓発・情報提供

◎介護・福祉用具相談事業

2 福祉用具の普及

◎福祉用具展示事業

◎自助具製作ボランティア育成事業

3 福祉人材の養成

◎居宅介護従業者養成研修

◎介護支援専門員実務研修受講試験の実施

◎介護支援専門員実務研修

4 市町村等支援事業

◎高齢者虐待防止体制整備支援事業

◎介護予防市町村担当者等研修事業

などがあります。

介護に関する情報発信と人材育成
～大阪府立介護情報・研修センター～

在宅福祉サービスの推進については、茨木市にある大阪府立介護情報・研修センターを拠点施設として、自助具製作体験講座、基礎講座、家庭介護講座や、専門職のための講座などを実施し、福祉にかかわる情報発信と人材の育成を行っています。

介護情報・研修センターは、1994(平成6)年4月、大阪府立介護実習・普及センターとしてオープンし、2006(平成18)年に現在の名前に改称されました。

上／介護情報・研修センターの福祉用具展示スペースの一部
左／福祉用具の体験ができるコーナー

介護に関する各種相談、認知症に関する電話相談を実施するとともに、大阪府内の市町村介護予防事業窓口の情報などを発信しています。

さらに、介護情報・研修センターでは、約700点の福祉用具が展示されています。

センターのテーマは「見て、触れて、試して」。用具の利用体験もでき、福祉用具への理解を深めることができます。さらに、保健師や理学療法士等の専門職による介護・福祉用具に関する各種相談を行っています。

『FINEおおさか』では、オープンした年の12号で在宅ケア・システムの拠点としてセンターを紹介。開所記念の催しや、始まったばかりの一般向け介護講座の様子などを伝えました。

1996(平成8)年18号では、「老いを支える よりよい在宅介護のために」という特集を掲載。介護の専門家や識者、介護経験者への取材を通して、在宅介護の課題や問題点を取り上げるとともに、介護の総合拠点である同センターの活動や施設の内容を掲載しました。

また、2008(平成20)年68号では、「暮らしを豊かにする福祉用具」と題した特集を実施。介護を受ける側も、介護する側も、共に豊かな暮らしができるための情報を発信しました。この号では、同センターの福祉用具展示場のさまざまな種類の福祉用具を紹介。リフトを使ってベッドから車いすへの移乗の体験の様子なども掲載し、最新の福祉用具事情を伝えました。

介護保険事業者支援事業

利用者の多様なニーズに応じた適切な介護保険サービスの確保を支援します。

主な取り組みとしては、

1 介護保険事業者支援センターの運営

2 介護保険居宅サービス事業者等支援事業

などがあります。

質の高いシルバーサービスの提供を支援 ～介護保険事業者支援センター～

介護保険事業者支援については、介護保険事業者支援センターを拠点に、サービス提供事業者の方々を対象に、利用者の方にとってより適切で、質の高いサービスの提供と、安定した事業運営の確保のための情報提供・研修などを実施し、介護保険制度のより一層の理解と定着を図っています。

介護保険事業者支援センターは2002(平成14)年5月、より質の高いシルバーサービスの提供をめざしてオープン。インターネット等により、介護保険をはじめとするシルバーサービスに関する各種情報の提供、サービスの質の向上や事業運営、人材育成等に関する研修会、セミナー、講演会等を行ってきました。

『FINEおおさか』では、2002(平成14)年44号で、「検証　3年めに突入した介護保険」と題した記事を掲載。介護保険にさまざまな立場で関わる5名の方に集まっていただき介護保険制度の検証を実施しました。

この記事の最後にオープンしたばかりの介護保険事業者支援センターを紹介。検証から浮かび上がった課題を受け、同センターのさらに充実した事業展開の必要性を確認しました。

44号の誌面
介護保険事業者支援センターオープンの告知記事

誌面プレイバック！

役に立つ情報を続々発信！

『FINEおおさか』では、ファイン財団の事業の三本柱に関わるものや、地域福祉に関わるタイムリーな話題を毎号特集として掲載するとともに、その他にも読者のみなさんに役立つ情報の連載を企画してきました。そのいくつかを振り返ってみましょう。

「診察室から」

健康に関するアドバイスを発信するコーナー。プレ創刊号から1992(平成4)年4号まで連載。

「快適生活のためのサポートグッズ」

1994(平成6)年13号から1996(平成8)年18号まで連載。福祉用具や自助具などを紹介しました。

「やさしいまちづくりをめざして」

1996(平成8)年19号から1998(平成10)年26号まで連載。バリアフリーを考えたさまざまな施設やまちづくりの取り組みを紹介しました。

「シニアライフの安全と安心」

2004(平成16)年51号から2006(平成18)年58号まで連載。安心して暮らすために知っておきたい知恵や対処法を紹介しました。

「暮らしのアドバイス／現代社会の基礎知識」

2006(平成18)年60号から2007(平成19)年63号まで連載。暮らしの中のちょっとしたアイデアや知恵を紹介するコーナーと、知っておきたい言葉や話題を紹介するコーナーを見開き2ページで紹介しました。

「リサイクルアートのススメ」

2007(平成19)年64号から連載スタート。地球環境にやさしいリサイクルに、楽しみながら取り組むためのアイデアクラフトを紹介するコーナーでした。

左／「リサイクルアートのススメ」の誌面
右／「快適生活のためのサポートグッズ」の誌面

パートナーシップ（利用者の利益保護）構築支援事業

介護サービスの質の確保・向上のため、事業所からの報告の受理及び公表を行っています。

主な取り組みとしては、

1 介護サービス情報の公表

◎大阪府介護サービス情報公表センターの運営

◎ファイン介護サービス情報センター（調査機関）の運営

などがあります。

適切な介護サービスが選択できるように ～介護サービス情報公表センター～

2005（平成17）年6月、介護保険法が改正され、翌年4月に施行されました。これに伴って始まった施策の一つが「介護サービス情報の公表」です。

利用者が介護サービスを適切に選択することができるよう、介護サービス事業所を比較検討するための情報を公表するというもので、介護サービス情報をインターネットを使っていつでも自由に見られるようになりました。

この公表業務を行うのが、大阪府介護サービス情報公表センターで、事業所の職員の体制や、床面積、機能訓練室などの整備、利用料金などの基本情報項目と、介護サービスに関するマニュアルの有無、サービス提供内容の記録管理の有無など、指定調査機関の調査員による確認を行った調査情報項目を公表しています。

『FINEおおさか』2006（平成18）年60号では、「介護サービス情報の公表が始まりました」として、制度の概要と公表内容、ホームページアドレスを紹介。また翌年62号では特集記事として公表の仕組みや、対象となる介護サービスについて改めて解説するとともに、ホームページの利用の方法をコンピュータの画面を示しながら、わかりやすく順を追って紹介しました。

さらに、2008（平成20）年68号では、平成20年度に追加された介護サービスについて一覧で紹介しました。平成21年度には、全ての介護サービスが対象となる予定です。今後も常に必要な情報の発信に努めていきます。

62号の特集誌面

誌面プレイバック！

お楽しみもいっぱい！

ファイン財団の事業や、地域福祉に関してのさまざまな情報を満載した『FINEおおさか』ですが、読者のみなさんにお楽しみいただくためのページも盛りだくさん。いきいきとした暮らしのための各種情報をお届けしました。

旅のコーナー

プレ創刊号の「おおさか味めぐり」や創刊号の「大阪からの一泊旅行」など、旅や各地の見どころを紹介する記事は、読者のみなさんからも好評のページ。2002（平成14）年43号からは「おおさかふるさと再発見」という連載記事として大阪府内のさまざまな見どころや魅力を紹介してきました。

2006（平成18）年60号からは「ぶらり、小さな旅」へと衣替え。温泉が楽しめるハイキングコースなどテーマを絞った大阪府内各地の魅力を伝えてきました。

クイズで頭の体操

2006（平成18）年60号からはクイズのコーナーも新設。季節の言葉をちりばめたクロスワードパズルで、楽しみながら脳の活性化にチャレンジしていただきました。

「伝えたい！　季節の折り紙」

2006（平成18）年60号からは、表紙も衣替えを実施。季節の伝承折り紙を使った美しい表紙となりました。

表紙で紹介した折り紙は、中面で折り方を紹介。「楽しんで折っています」「孫につくってあげて喜ばれました」など、読者のみなさんから嬉しい反響をいただいたシリーズとなりました。

シルバーサービスの振興

高齢者の豊かな暮らしの実現に向けて、会員や関係機関・団体と連携・協力を図りながら、シルバーサービスの振興に努めています。

主な取り組みとしては、

1 ネットワークづくり

◎シルバーサービス研究会の開催

◎シルバーサービス情報交流会の開催

2 シニアライフサポート事業

3 民間事業者の資質向上

◎シルバーサービス事業従事者研修の実施

◎エイジレス社会海外福祉事情視察の実施

◎介護の就職・転職フェア

◎利用者への情報提供のあり方に関する研究会

◎(社)日本福祉用具供給協会近畿支部事務局及び大阪ブロック事務局の運営

などがあります。

「介護の就職・転職フェア2008」面談と講演

海外の福祉事例を学び活かす ～"エイジレス社会"海外福祉事情調査・研修～

1994(平成6)年、海外の福祉事例を学ぶための「"エイジレス社会"海外福祉事情調査・研修」がスタートしました。

この調査・研修は、ファイン財団の会員企業・団体をはじめとして府内市町村や介護関連サービス提供事業者・社会福祉施設・医療機関の職員を対象としたもの。設定したテーマに沿って、海外の行政機関やサービス提供団体、施設等を調査・研修します。

『FINEおおさか』誌面でも、1995(平成7)年14号で巻頭カラー2ページを使ってアメリカコースの視察の様子を紹介。サンシティとレジャービレッジという高齢者のために開発された2つのコミュニティを見学し、高齢者が誇りをもって暮らせる町づくりについて学んだことを報告しました。

翌年の18号で第2回のカナダ・アメリカコース、ドイツ・イギリスコース、22号で第3回のオーストラリアコース、ヨーロッパコース、翌年に第4回のアメリカコース、ヨーロッパコースの様子をレポートするなど、調査・研修の取り組みと成果を報告し、先進福祉事例を伝えました。

20年度には、高齢者虐待防止の取り組みや、介護サービスの担い手である人材の確保についてをテーマに、アメリカとフィリピンへの視察を実施しました。

上／14号の誌面
中／"エイジレス社会"海外先進国視察・研修旅行ドイツ・イギリスコースで訪問した国際リハビリテーション展
下／同じくカナダ・アメリカコース。総合福祉施設ベイクレスセンターを見学する一行

明るい福祉社会をサポート
～シルバーサービス総合フェア～

1995(平成7)年、高齢世代のクオリティ・オブ・ライフ(生活の質)を高め、未来を拓くシルバーサービスを「見て」「体験して」「知って」もらうことを目的に「シルバーサービス総合フェア イン 大阪」を開催。大阪で初となるこのイベントは各界の注目を集め、幅広い分野からの99社にのぼる企業が参加し、総入場者数15・000人という盛り上がりを見せました。

同年の『FINEおおさか』17号では、巻頭カラー2ページでこのイベントの模様を紹介。シルバー世代だけでなく、若い世代も含めた大阪府民が新しいエイジレス社会のシステムの情報にふれ、考え、楽しんだ3日間を伝えました。

翌年も引き続き開催されたこのフェアは、恒例イベントとして定着。多彩な福祉用具や自助具の展示、新しい福祉サービスをサポートしていくためのサービスと商品の紹介をはじめ、シンポジウムや楽しいイベントなどが繰り広げられました。

『FINEおおさか』21号では、特別企画として第2回目の「シルバーサービス総合フェア イン 大阪 '96」の様子を5ページにわたってレポート。また、このフェアに先がけて大阪府立介護実習・普及センター(現介護情報・研修センター)で開催された「福祉機器特別展」を紹介しました。

上／「シルバーサービス総合フェア イン 大阪」開幕式
中／シンポジウム
下／高齢者手作り作品展示コーナー

福祉社会を支えるネットワーク
～シルバーサービス会員～

ファイン財団では、シルバーサービスの振興を実現するため、シニアの「生活」に関連するさまざまな分野で「シルバーサービス」を展開する企業・団体による「シルバーサービス会員」を組織しています。

平成21年1月現在の会員数は27企業・団体です。(下記参照)

シルバーサービス会員企業・団体
(五十音順)

◎(財)大阪キリスト教青年会(大阪YMCA)
◎(株)大阪読売広告社
◎川村義肢(株)
◎(社)関西シルバーサービス協会
◎関西電力(株)
◎近畿日本ツーリスト(株)
◎近鉄スマイルサプライ(株)
◎(株)サンケイビルテクノ
◎(株)JTB西日本
◎(株)せいき
◎全労済 近畿大阪府本部
◎綜合メディカル(株)
◎武田薬品工業(株)
◎(株)ダスキン
◎(株)東通企画
◎(社)日本福祉用具供給協会近畿支部 大阪ブロック
◎(株)博報堂 関西支社
◎パナソニック電工ケアサービス(株)
◎(株)ハピネス
◎(株)阪急交通社
◎(財)フィットネス21事業団
◎富士通(株) 関西営業部
◎フランスベットメディカルサービス(株)
◎三井住友海上火災保険(株)
◎名鉄観光サービス(株)
◎(株)メディケア・リハビリ
◎(財)ユニチカ修斉会

編集室から

今までファイン財団の総合情報誌として発行してきた「FINEおおさか」も、この第71号をもって終了することになりました。長い間、皆様にご支援、ご愛読いただいたことに感謝いたします。

一言に20年と言いますが、今号の制作にあたり、プレ創刊号から改めてページを繰っていきますと、長い歴史を感じます。私自身も、このファイン財団と共に20年を歩んできました。20年間のさまざまな事業に関わり、大阪の福祉に向き合ってきました。人と人とのふれあい、出会い、その時々の出来事が頭の中を駆け巡り、懐かしい想い出とこの情報誌に携わってきたという愛着からか、やはり終わってしまうという寂しさは拭いきれません。初めて「FINEおおさか」を担当し、取材を経験した日からまる8年、本当にたくさんの方々に支えられてきたように思います。今はこの最終号が無事に発行できたことにホッと胸を撫でおろしているところです。

時代の流れ、これからの財団がどうあるべきかを真摯に考え、また一歩前進、成長していく時期であると受け止めながら、これからも財団の足跡をしっかりと残していけたらと考えます。

最後に、プレ創刊号からの編集担当者を代表して、感謝の気持ちをお伝えできることを嬉しく思い、皆様にお礼を申し上げます。有難うございました。

これからもファイン財団に対しまして、温かいご支援をいただきますようお願いいたします。　(Y・H)

21号「シルバーサービス総合フェア イン 大阪'96」特集誌面

42号掲載の
「第7回シルバーサービス総合フェア イン 大阪2001」
上／車いす試乗体験コーナー
右／インスタントシニア体験コーナー

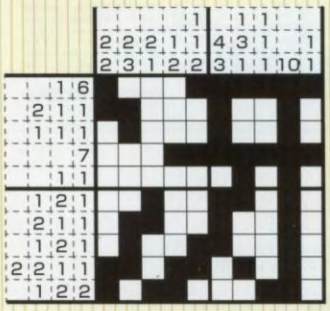
企業展示コーナー

楽しみながら 頭の体操

季節の風物をヒントにちりばめたクロスワードパズルやロジックパズルの「楽しみながら　頭の体操」コーナー。正解者へのプレゼントは楽しい生活グッズを用意し、お届けしてきました。

前号の答え

●ロジックパズル



●クロスワードパズル

1 ハ	2 ツ	ユ	3 メ	■	4 コ
5 レ	イ	■	6 ダ	7 ル	マ
8 ギ	ン	9 セ	カ	イ	■
■	10 ズ	イ	■	11 ジ	12 ス
13 キ	■	14 コ	ケ	■	キ
15 カ	ト	ウ	■	16 カ	ー

A	B	C	D	E
カ	レ	ン	ダ	ー

FINEおおさか
第71号 2009年 SPRING
発行／(財)大阪府地域福祉推進財団 TEL／06(4304)0294(代)
〒540-0012 大阪市中央区谷町5丁目4番13号 大阪府谷町福祉センター内
制作／株式会社 アド・ポポロ TEL／06(6765)2898(代)
〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町15-18・102

ZENROSAI NEWS
7608S158

家族一人ひとりに、一生つづく大きな安心を。 LL Long & Large

全労済のこくみん共済

個人定期生命共済・こども定期生命共済・熟年定期生命共済・傷害共済・終身生命共済・個人長期生命共済

2009年1月より、こくみん共済に新しいタイプが加わりました！

新たに仲間入りしたのはこの5つのタイプ！

ニューラインアップでさらに充実・より頼もしく皆さまの安心の暮らしを応援いたします！

■入院日額5,000円の心強いタイプ

終身医療5000

掛金は加入時（発行日）の年齢・性別により異なります。

加入できる方 満15歳～満64歳までの健康な方（契約期間:終身/掛金払込期間:終身）

主な保障内容
- 入院日額5,000円、日帰り入院から最高180日保障！（通算1,000日まで）
- 手術を受けたとき1回50,000円保障！（全労済所定の手術）

■一生涯の医療保障のベース

終身医療3000

掛金は加入時（発行日）の年齢・性別により異なります。

加入できる方 満15歳～満64歳までの健康な方（契約期間:終身/掛金払込期間:終身）

主な保障内容
- 入院日額3,000円、日帰り入院から最高180日保障！（通算1,000日まで）
- 手術を受けたとき1回30,000円保障！（全労済所定の手術）

■若い世代からの一生涯の医療保障

終身医療総合5000

掛金は加入時（発行日）の年齢・性別により異なります。

加入できる方 満15歳～満75歳までの健康な方（契約期間:終身/掛金払込期間:終身）

主な保障内容
- 入院日額5,000円保障（通算1,000日まで）！
- 先進医療を受けたとき最高100万円保障！
- 手術を受けたとき1回5・10・20万円保障！（全労済所定の手術）

■入院・手術…55歳からの医療の備え

定期医療総合5000

掛金は加入時（発行日）の年齢・性別により異なります。

加入できる方 満55歳～満70歳までの健康な方（満80歳の満期日まで保障）

主な保障内容
- 入院日額5,000円保障（通算1,000日まで）！
- 先進医療を受けたとき最高100万円保障！
- 手術を受けたとき1回5・10・20万円保障！（全労済所定の手術）

■万一のために、55歳からの生命保障

定期生命300

掛金は加入時（発行日）の年齢・性別により異なります。

加入できる方 満55歳～満70歳までの健康な方（満80歳の満期日まで保障）

主な保障内容
- 病気等により死亡した場合300万円保障！
- 不慮の事故により死亡した場合600万円保障！

※ 終身医療5000 終身医療3000 は単独での契約はできません。また、終身医療5000 終身医療3000 は、どちらかひとつの加入となります。
さらに、医療終身タイプにご加入の場合 終身医療5000 終身医療3000 にはご加入できません。
※ 終身医療3000 は、医療終身タイプの新しい名称です。保障内容・掛金に変更はありません。

基本タイプのご案内

お手頃な掛金で、頼れる保障。新しい「こくみん共済」ならさまざまな年代、ご家族、そして一人ひとりにぴったりな保障が選べます。

■手頃な掛金で充実の医療保障
- 医療タイプ 月掛金 1,600円

■入院から死亡まで、手厚い保障をお求めの方に
- 総合タイプ 月掛金 1,800円
- 総合2倍タイプ 月掛金 3,600円
- 大型タイプ 月掛金 5,400円

■元気なお子さまのもしもに備える
- キッズタイプ 月掛金 900円
- キッズワイドタイプ 月掛金 1,600円

■シニア世代にも安心の保障を
- シニア総合タイプ 月掛金 2,000円
- シニア傷害タイプ 月掛金 2,000円

健康状態にかかわらず加入OK！

お問い合わせは 全労済大阪府本部（全大阪労働者共済生活協同組合） TEL:06-4703-0174 FAX:06-4703-0176

ホームページアドレス http://www.zenrosai.coop

◆新しく組合員になられる方へ（出資金について）
全労済は消費生活協同組合法にもとづき、非営利で共済事業を営む生活協同組合の連合会です。生活協同組合は、組合員の参加により運営されており、出資金をお支払いいただければ組合員になることができ、各種共済に加入できます。新しく組合員となられる方には、生活協同組合運営のために出資（1,000円以上）をお願いしています（出資金は1口100円で、最低1口以上の出資が必要です）。出資金は、加入される共済の掛金払込方法に応じて下記の取り扱いとさせていただきます。掛金の払込方法―月払い1,200円（毎月100円×12ヵ月） 年払い1,000円（1回のみ）

全労済は、将来の支払いに備えて、厚生労働省令に定められている共済契約準備金をこえる充分な積み立てをおこなっています。また、資産運用のリスクを適切に管理し、健全な資産運用をおこなっています。全労済は、これからも引き続き健全な経営に努めていくとともに、情報開示を積極的におこなっていきます。また、個人情報保護法をはじめ関連する法令等を遵守し、お預かりしたお客さまに関する情報について厳重な管理体制のもとに正確性・機密性・安全性の確保に努めています（※詳しくは、全労済にお問い合わせください）。

保障のことなら 全労済
全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心と ゆとりある暮らしを目指しています。すでに組合員は全国で1,390万人。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。
全国労働者共済生活協同組合連合会

7608S158.09.02KD

財団法人
大阪府地域福祉推進財団（ファイン財団）
〒540-0012 大阪市中央区谷町5丁目4番13号 大阪府谷町福祉センター内
TEL 06(4304)0294 FAX 06(4304)2941